

あなたもできる 松くい虫防除方法

～マツの木への樹幹注入～

大事なマツを松くい虫被害から守るためには、現在のところ、樹幹注入と薬剤散布を行う防除方法しかありません。特に樹幹注入は、高い防除効果が期待できます。また、薬剤散布と樹幹注入を併用することにより、さらに効果を高めることができます。

いずれの防除法も「適正な時期に」「適正な使用方法で」行わないと、効果は期待できません。



4...ドリルで穴をあける

- ・ドリルで、地上50センチくらいの場所に注入用の穴をあける。
- ・幹に対して下向きに30度くらいの深さの穴を開ける。



1...道具を用意する

- ・ポンチ（直径5ミリほど）ハンマー
- ・電動ドリル（ドリルの刃は樹幹注入剤のノズルサイズに合わせる）
- ・樹幹注入剤
- ・樹幹注入剤付属のコルク栓癒合剤（ゆきごみ）



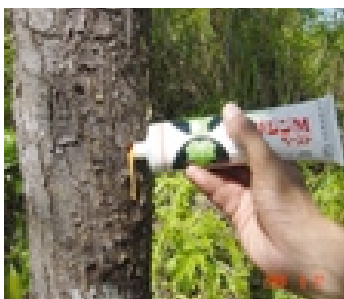
5...薬剤を注入する

- ・注入口に、樹幹注入剤をしつかりと差し込み、付属の目打ち等でボトルの底に空気穴をあける。



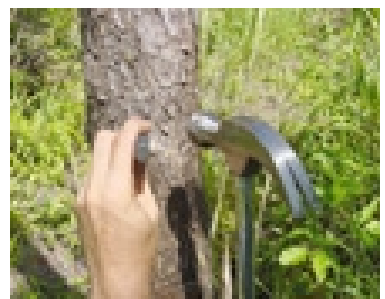
2...木の大きさを測る

- ・胸の高さの直径と樹高を測り、注入する薬量を決定する。



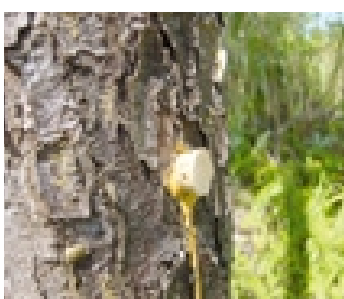
6...癒合剤を注入する

- ・薬液が全てなくなったら、樹幹注入剤のボトルを抜き取り、注入口に殺菌効果のある癒合剤を注入する。



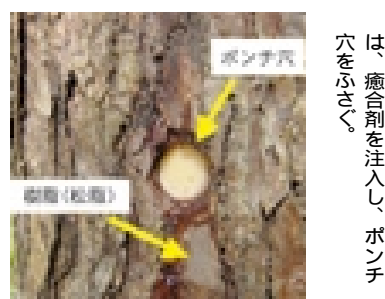
3...ポンチで穴をあける

- ・松くい虫に感染していないかどうかを判定するため、ポンチで穴をあけ、樹脂（松脂）の流れ具合を調べる。
- ・ハンマーでポンチを2〜3回軽く叩き、辺材部（材表面の白色部）が露出するよう、樹皮をくり抜く。



7...コルクで栓をする

- ・癒合剤が乾く前に、付属のコルク栓で注入口を塞ぐ。



(樹脂の流出状況)

- ・松くい虫に感染していない健全な松の場合、しばらくすると樹脂が流れ出てくる。
- ・樹脂が全く出ないものや、2〜3時間たっても少量しか出ないものは、松くい虫に感染している可能性もあるので、専門家に相談する。
- ・樹脂の流れ具合を観察した後は、癒合剤を注入し、ポンチ穴をふさぐ。

松くい虫被害のまん延防止には、みなさまのご理解とご協力が必要です！

松くい虫の被害は、昭和四十八年に初めて発見されて以来、県木であるリュウキュウマツに重大な被害を及ぼし、現在中北部を中心に被害がまん延しています。

被害のまん延を防止するため、平成十四年に「沖縄県松くい虫の防除に関する条例」を制定し、将来にわたって県木であるリュウキュウマツを保全するため、積極的な防除に取り組んでいます。

松くい虫防除県民大会を実施

松くい虫防除の重要性和意識の高揚を広く啓発し、被害木の駆除推進と被害のまん延防止を図るため、平成十七年二月三日、県立石川自然少年の家で、松くい虫防除県民大会を実施しました。

参加した地域住民・森林ボランティアの方々など約八百名が参加した中、「松くい虫防除は、行政機関の努力のみならず、松林の所有者や管理者をはじめ、県民の理解と協力が必要」と呼びかけ、施設内の松くい虫被害木の搬出作業を行いました。



県民大会参加者による搬出作業



山林内からの搬出の様子

お問い合わせ

県みどり推進課
県林業試験場
県北部林業事務所

TEL.098-866-2297
TEL.0980-52-2091
TEL.0980-52-2832

県南部林業事務所

県宮古支庁農林水産振興課
県八重山支庁農林水産振興課

TEL.098-889-1270
TEL.0980-72-2550
TEL.0980-82-3043